

Monthly Report

佐々木琢磨選手・星泰雅選手 第24回夏季デフリンピック競技大会報告会を開催



左から佐々木琢磨選手（本学OB・H28年卒）、星泰雅選手（本学OB・R3年卒）

5月30日に本学LC棟において、5月にブラジル（カシアス・ド・スル）で開催された第24回夏季デフリンピック競技大会で本学職員の佐々木琢磨選手（本学OB・H28年卒）が陸上競技男子100Mで日本人初となる金メダルを獲得し、星泰雅選手（本学OB・R3年卒）が水泳競技において2種目（4×100メドレーリレー・4×100フリーリレー）で銀メダルを獲得した、両名の報告会が行われました。

朴澤泰治理事長から「夢を持ち、それを目標、目的にして、様々な努力を重ねて実現に至ったことは、彼らに続く、これからの若い世代への励みになる」、高橋仁学長からは「人間はひとりひとりが特別な存在であり、その可能性は無限であることを今大会の両名の活躍で証明してくれました」と祝辞がありました。

今大会を振り返り、佐々木選手は「本学に来て11年間が経ち、これまで様々なことがありましたが、大学関係者の皆さんのサポートがあり、ここまで来ることが出来ました」と感謝の言葉を述べ、星選手は「コロナ禍の影響で思うような練習場所がなく、水泳を何度も辞めようと思うことがありましたが、仲間励まされメダルを獲得することができ感謝しています」と謝辞がありました。

また、同窓会を代表し、小島淑子同窓会会長から挨拶と共に報奨金と懸垂幕が贈呈され、両選手が所属した陸上競技部および水泳部の学生より花束が贈られました。

なお、報告会には約70名が参加し、その模様をスポーツ情報サポート研究会の学生が撮影し、本学公式YouTubeチャンネルで配信しています。



リンク：<https://youtu.be/-vY-Op4gH7c>

動画はこちらからも
ご覧いただけます



〈 目 次 〉

・佐々木琢磨選手・星泰雅選手 第24回夏季デフリンピック競技大会報告会を開催	1
・本学の佐々木琢磨職員がデフリンピックで世界一に	2
・スポーツマネジメントコース春季研修会を終えて	3
・男子バレーボール部の林佑何と亀山 優汰がV. LAGUE DIVISION1に所属するチームヘアナリストインターナショナル	5
・【スポーツ情報サポート研究会】スポーツコード勉強会に参加 ・男子バレーボール部／春季リーグ戦を全勝で優勝する	6
・硬式テニス部／東北学生春季テニストーナメント大会結果 ・夏へ課題見つけた！ 体操部力こぶ／東日本インカレ	7
・2022年度若手・女性研究者奨励金「女性研究者奨励金」に採択 ・「高校スポーツの安全を守る」Vol. 49	8

学生の活躍や、取り組みなどをご存知でしたら広報課までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供して参ります。

本誌へのご意見・ご質問等がありましたら広報課までご一報ください。

仙台大学 広報課

直通 0224 - 55 - 1802

Email kouhou@sendai-u.ac.jp

佐々木琢磨選手・星泰雅選手 第24回夏季デフリンピック競技大会報告会報告会の様子



本学の佐々木琢磨職員がデフリンピックで世界一に

本学の佐々木琢磨職員は5月9日、ブラジル（カシアス・ド・スル）で開催されている第24回夏季デフリンピックの陸上競技男子100Mで10秒75を記録し、日本人初となる金メダルを獲得しました。

佐々木琢磨職員のコメント

「デフリンピックで世界一になるために」と健常者界に踏み出す勇気を決意し、仙台大学に入学してから11年間ずっと、怪我や困難などの壁にぶつかり、努力し乗り越えた最高の金メダルを獲得することができました。

本学陸上競技部の指導者に多くのことを学び、最高の走りをこの舞台上で発揮することができました。

たくさんの応援誠にありがとうございました。

大会中の様子

提供：日本デフ陸上競技協会



スポーツマネジメントコース春季研修会を終えて



3年ぶりに宿泊を伴う体育学科スポーツマネジメントコース春季研修会を4月23、24日に実施しました。

この研修会はスポーツマネジメントコースの2年生を対象にコースの特徴を理解し、実践力を高めるという教育方針・特色を表す一つの大きなイベントです。

コース教育を理解するためのプログラム「レクチャー」と「体験談話会」では、学生がメモを取りながら、教員と先輩方からの話を真剣に聞く様子や、仲間と協力し合いながら役割分担をして行うプログラムでは、「野外炊事」で炊いた焦げたご飯や、使用済み調理用具の片づけに対して、施設の職員方から指導を受ける学生も見受けられましたが、時間内で全員ゴールにたどり着くことができました。

今回の研修会は、コロナ感染予防対策を徹底的に講じ、入所式に励ましに駆けつけてくださった高橋仁学長をはじめ、プログラムの考案から実施までの企画運営に携わったコース教員、補助学生のご尽力により無事に終わることが出来ました。誠にありがとうございました。

また、活動を通して、コースへの帰属意識を高められ、学生同士や先輩・教員との横・縦の繋がりが強まり一体感を感じました。

<体育学科スポーツマネジメントコース主任 馬 佳濛>

男子バレーボール部の林佑河と亀山 優汰がV. LEAGUE DIVISION1に所属するチーム へアナリストインターンシップ

男子バレーボール部所属の林 佑河（スポーツ情報マスメディア学科4年）が堺ブレイザーズ（バレーボール男子V. LEAGUE DIVISION 1）へ、同部の亀山 優汰（スポーツ情報マスメディア学科3年）が、大分三好ヴァイセアドラー（バレーボール男子V. LEAGUE DIVISION 1）へインターンシップでのアナリスト活動を行いました。

共に4月30日（土）～5月5日（木）に開催された「第70回黒鷲旗 全日本男女選抜バレーボール大会」までチームに同行。インターンシップを通して現場での経験や実践したことを活かし、さらに成長していくことを期待しています。

【林 佑河（はやし ゆうが）】



※写真は堺ブレイザーズからご提供いただきました

- 生年月日：2000年6月30日（21歳）
- 出身：青森県八戸市（青森県立八戸東高校出身）

【コメント】

男子バレーボール部監督の石丸先生や受け入れてくださったチームの方々、男子バレー部でのアナリスト業務を任せた後輩、多くの人の協力やご縁のおかげで今シーズン男子V. LEAGUE DIVISION 1の堺ブレイザーズにアナリストとして帯同しスキルアップすることができました。本当にありがとうございました。

バレーボールの国内トップリーグのチームにアナリストとして同行することでトップ選手や監督、コーチの方々のバレーボールに対する取り組みや、現場でどのようなことが実際に行われているか等を肌で感じることができました。現場を知ることでアナリストとしての技量や経験は勿論ですが、それ以外にも技術的なスキルやコーチング等多くのことを学ばせていただきました。

バレーボールに人生を賭けている方たちとの生活は学生スポーツとは違った緊張感や勝利した時の達成感、喜びがあり、改めて自分はスポーツが、バレーボールが好きだということを実感できました。

大学での活動にも今シーズン学んだことを少しでも多く還元し、チームと選手、そして自分自身の成長のために尽力し、悔いのない大学ラストイヤーとしたいと思います。

【亀山 優汰（かめやま ゆうた）】



- 生年月日：2001年8月1日（20歳）
- 出身：宮城県多賀城市（宮城県立多賀城高校出身）

【コメント】

大学で行っている分析活動とは異なる面も多かったですが、大学生らしく積極的に行動に移すということを心がけながら、自分にできることを精一杯頑張って活動しました。日本最高峰のリーグでの経験を、本学の男子バレーボール部にしっかりと還元していきたいです。

【スポーツ情報サポート研究会】スポーツコード勉強会に参加

5月11日（水）株式会社フィットネスアポロ社・Hudl Japan様（<http://hudl.jp/>）主催の「スポーツコード勉強会」に、スポーツ情報サポート研究会所属の8名の学生が参加しました。

スポーツコードはチームを勝利に導くために、映像が持つポテンシャルを最大限に引き出すためのゲーム分析ソフトです。オリンピックなどの国際大会に出場する代表チームや、国内外のプロチームで導入されています。「分析項目を自由にカスタマイズができる」という特徴があり、様々な競技で愛用されているソフトウェアです。本学では10年ほど前からスポーツコードを導入しており、現在も複数の部活動で活用しています。

本学から参加した学生は、バスケットボール部、バドミントン部、硬式野球部、バレーボール部を普段サポートしている学生で多種目に渡り、中には初めてスポーツコードに触れた新入生もいました。今後のアナリスト活動・研究活動で使ってみてみたいと思った学生もいたようです。

今回は基本的な操作から細かいテクニックなどについてレクチャーをしてもらいました。今回感じた事や学んだ事を研究会活動に活かしていきたいと思います。

スポーツ情報サポート研究会では、情報戦略とメディアに関わる勉強会を毎月1回開催していきます。今後も活動の様子をお知らせできればと思います。
<スポーツ情報サポート研究会>



スピーカーの話に耳を傾ける学生

男子バレーボール部／春季リーグ戦を全勝で優勝飾る

本学男子バレーボール部が第59回東北バレーボール大学男女リーグ戦で全勝優勝を飾りました。

リーグ最終節は5月21・22日（日）に本学第2体育館で行われ、本学は21日に東北福祉大学、22日は東北学院大学といずれも勝利を収め、リーグ成績を7勝0敗としました。

21日

仙台大学 3 (25 - 15、18 - 25、25 - 19、26 - 24) 1 東北福祉大学

22日

仙台大学 3 (25 - 23、29 - 27、25 - 20) 0 東北学院大学

チームは今後、東日本インカレや国体予選、天皇杯予選などと大会が続きます。どの大会も好成績を残せるように更なる練習を積み上げて参ります。

男子バレーボール部Twitter；仙台大学男子バレーボール部 (@sendaivolley)、Instagram：仙台大学男子バレーボール部 (sendaiunivolley)から情報を発信していますので各SNSのフォローもよろしくお願いいたします。

今後も仙台大学男子バレーボール部の応援をよろしくお願いいたします。

<男子バレーボール部>



硬式テニス部／東北学生春季テニストーナメント大会結果

東北学生春季テニストーナメント大会が4月28日～5月4日に仙台市・泉総合運動公園、川内庭球場で行われました。

本大会は全日本学生テニス選手権（インカレ：三重県）の東北代表の選考も兼ねており、本学は遠沢風太（体育4年）、桜庭千夏（体育3年）、内山優衣（体育4年）の3名がインカレの出場権を獲得しました。

結果

○男子シングルス

第7位 早坂優輝（体育4年）

○男子ダブルス

優勝 遠沢風太（体育4年）・ 緒方（東北大学医学部）

第5位 早坂優輝（体育4年）・ 佐藤紋斗（体育2年）

○女子シングルス

第3位 桜庭千夏（体育3年）

第4位 内山優衣（体育4年）

○女子ダブルス

準優勝 桜庭千夏（体育3年）・ 内山優衣（体育4年）

第3位 五十嵐雛子（体育4年）・ 工藤はるか（スポーツ栄養4年）

コロナ禍の開催でありましたが、SNSなどを通じて保護者の方々、OBOGをはじめとして多くの声援を賜りました事、チーム一同感謝申し上げます。

<硬式テニス部>



左:遠沢（体育4年）、緒方（東北大学医学部）



（左から:内山（体育4年）、桜庭（体育3年）、工藤（スポーツ栄養4年）、五十嵐（体育4年）

夏へ課題見つけた！ 体操部力こぶ／東日本インカレ

体操の第55回東日本学生選手権大会が5月19日（木）から3日間、群馬県高崎市の高崎アリーナで行われ、本学勢はいまひとつピリッとした成績を収められませんでした。目指すのはあくまで「大学日本一」だけに、少しでも近づくため夏の全日本インカレ（8月18～22日・三重県四日市市）へ向けて巻き返します。

団体総合の成績は男子4位（総合得点396.500）、女子9位（同230.200）。とても満足いくものではありません。男女を率いる鈴木良太監督は「ミスが目立つし、いずれも練習が足りない。心も体も鍛え直す」と厳しく総括しながらも、「課題が見えたとも言えるし、各選手の調子を上向かせていきたい」と意欲を示しました。

個人総合は男子の佐々木郁哉（体育2年）が81.700の得点で7位にくい込んだのが最高。一方、種目別は岩澤将英（体育3年）が跳馬を15.100で制し気を吐きました。このほか、佐々木は床運動と跳馬で共に3位、あん馬でも5位に入りました。さらに岩澤は床運動4位、1年生の吉田求（体育）はあん馬で7位。鉄棒は高橋静波（体育3年）が8位でした。

<体操競技部>



男子団体のメンバー



女子団体のメンバー



個人枠で出場した男女のメンバー

2022年度若手・女性研究者奨励金「女性研究者奨励金」に採択

このたび、加畑 碧助教の研究課題「セルフモニタリングを活用した女性アスリートの心身の自己調整」が、日本私立学校振興・共済事業団「2022年度若手・女性研究者奨励金」の「女性研究者奨励金」部門に採択されました。

女性アスリートが心身ともに健やかにスポーツに取り組んでいくためのシステムを構築し、選手のコンディション維持とパフォーマンス向上の双方の有効性等について研究を進めていきます。



加畑 碧 助教

川平キャンパスAT・S&Cレポート

「高校スポーツの安全を守る」Vol. 49

助手 浅野 勝成

今回は、各部活動に提供しているトレーニング内容の一部を大まかに紹介します。

- 1. レジスタンストレーニング**
ウェイトトレーニングや自体重を用いた様式となります。筋肉量の増加、筋腱複合体の強化、そして筋力の向上などが目的となります。
- 2. プライオメトリックトレーニング**
主にジャンプを用いたトレーニングで、筋腱複合体のばねなどを鍛えて瞬発力の向上を狙います。正しい着地姿勢も習得して着地時の傷害リスクの減少を目指します。
- 3. スプリント・アジリティトレーニング**
加速、スピード、減速、方向転換の動作習得と質の向上を目的とします。特に減速を重点に置きます。理由は、例えば、ブレーキ性能の劣ったスポーツカーは事故を起こしやすく、加速やスピードが良くても減速の質が悪いと傷害リスクが上がるためです。
- 4. メディシンボールトレーニング**
メディシンボールという3-5kg程度のボールを用いたトレーニングとなります。壁、床、真上、そしてペアを組んで投げます。全身・上半身のパワーやボールをキャッチする際の衝撃を上手く受け止める力（≒減速・着地能力）を養成します。
- 5. ウェイトリフティング**
ジャークを導入可と判断したチームのみに指導しています。全身のパワーとキャッチする際の姿勢制御（≒着地・減速能力）の向上を目的とします。
- 6. 持久系トレーニング**
走様式が多いので“ラントレ”とも言います。様々なインターバルトレーニングを用いて持久力の向上を目指します。これが多い時期はストップウォッチを持つだけで生徒達が嫌な顔をすることも。たまに私も一緒に走ることもあります。
- 7. モビリティ・静的ストレッチ**
ウェイトトレーニング中のセット間などに用います。紹介して自宅でやるようにと指示もします。基本的には紹介して自宅で習慣化するよう促しますが、それがとても難しい。
- 8. ウォームアップ**
RAMP (Raise, Activate, Mobilize, Potentiate) の概念を参考に指導しています。おおよそ10-15分程度のものを各競技のニーズを基に作成・指導しています。また、毎日行えるトレーニングでもあるため、様々な種目を段階的に導入していくこともあります。
- 9. 安全面などの指導・教育**
適切な器具の使い方、清掃の仕方、服装、シューズの履き方なども指導します。間違っていれば即座に修正します。高校在学中がトレーニングを学べる最後の期間にもなりうるため、卒業後も安全にトレーニングや運動を行えるような指導・教育を心掛けています。

～仙台大学教職員の共通理解事項～

仙台大学の「建学の精神」、「基本理念」、「使命・目的」

建学の精神

「実学と創意工夫」

仙台大学の経営母体である学校法人朴沢学園(明治12年開設)の学園創始者は、建学の精神として「実学と創意工夫」を掲げ、「創意工夫と先見性をもって実学を志し、実学に根ざした人格形成と人材育成を図る」ことをもって先進的な女子教育を行い、寺子屋方式に代え一斉教授法を導入し明治時代の裁縫教育に一大革新をもたらした。

その考え方は、体育系単科大学として昭和42年に開学した本学にも受け継がれ、人格形成の要素である体育・徳育・知育のうち「体育」に教育・研究の重点を置きつつ、実学と創意工夫に根差した広い教育研究領域を探求することに継承されてきた。なお、建学の精神の意図するところについては、開学時の第1回入学式・初代学長告辞にも「社会で充分活動できるための智識と技能を鍛えた心身ともに健康である人間をつくることであり、仙台大学は、企業等における健康管理・健康指導の企画・実施担当者の育成、各種の運動機構等における実技指導者、ならびに学校体育の指導者を養成することを目的としております」と端的かつ明確に示されている。

基本理念

「スポーツ・フォア・オール」

仙台大学は、昭和42年、単一学部・単一学科で開学した。その後、平成7年度以降、順次学科を増設し、現在では6学科構成としている。また、学科増設に加え平成10年度には大学院スポーツ科学研究科(修士課程)も新設している。こうした教育研究領域の拡大に伴い建学の精神を基盤に据えつつ、大学の新たな基本理念として定めたのが「スポーツ・フォア・オール」である。

「スポーツ・フォア・オール」とは文字通り「スポーツは健康な人のためだけでなく、すべての人に」を、すなわち「乳幼児から元気なお年寄りはもちろん、寝たきりのお年寄りまで。そして、性別や障がいの有無を問わず、トップアスリート、生活の中での楽しみや健康の励みとしてスポーツをする人、スポーツをみる人が好きな人、スポーツをささえる人などすべての人を対象としてスポーツを科学的に探究すること」を意味している。

使命・目的

基本理念を踏まえた仙台大学の使命・目的は、仙台大学学則第2条および仙台大学大学院学則第2条にそれぞれ示している。

■仙台大学学則 第2条

本学は、体育・スポーツ、健康福祉、スポーツ栄養、スポーツ情報マスメディア、現代武道及び子ども運動教育に関する諸科学を教授研究し、当該分野における指導者としての専門的知識と技能を体得させるとともに、高い識見と広い視野とをもって、社会の指導的な役割を果し得る有能な人材を育成することを目的とする。

■仙台大学大学院学則 第2条

本大学院は、広い視野に立って、体育・スポーツ、健康福祉、運動栄養、スポーツ情報マスメディア、現代武道及び子ども運動教育に関する学術の理論と応用を教授研究し、当該分野における高度の専門的な職業等を担うための卓越した能力を培い、もって体育・スポーツ及び健康分野の発展に寄与する有為な人材を育成することにより、広く社会に貢献することを教育研究上の目的とする。

その他 (リンクを貼っていますので、項目をクリックして閲覧ください)

■人材の養成に関する目的その他教育研究上の目的(仙台大学学則別表第一)

■3つのポリシー ①学部 ②大学院

③体育学科 ④健康福祉学科 ⑤スポーツ栄養学科

⑥スポーツ情報マスメディア学科 ⑦現代武道学科 ⑧子ども運動教育学科

■朴沢学園中期経営計画

■事業計画